



contents

- 02 THIS IS MY STYLE.
こんな風に、暮らしています。
- 14 GOOD FELLOWS.
やっぱり仲間が、一番です。
- 16 TEACHER'S STYLE.
先生に聞きたいあれこれ。
- 17 WHAT'S UP?
いま、何やってる？
- 18 FLAIR WORKSHOP.
ワクワク企画が満載です。
- 22 OUR RECOMMEND!
みんなの、カルチャー。
- 23 GOOD HEALTH.
健康が、いちばん。
- 23 STAFF ROOM.
こんな風に、働いています。

特集

じぶん旅計画。

Editor's Note

“足ヒレと話があればなんとかなる”
という八幡さんのような発想をする
には程遠い私ですが、彼の「人はど
んな環境でも楽しく生きられるとい
うことを、僕は旅から学んだんです」
というお話にはとても心打たれるも
のがありました。それは、記録など
にとらわれず、ただ純粋に“知りたい”
という気持ちから旅を続ける八幡さ
んの、実体験から得た言葉だったか
らなのだと思います。どんなメッセー
ジでも、実際に体験した人から聞く言
葉というのは心に響きますね。まさに
旅も同じで、実際に体験してそこで感
じた“何か”はいつか必ず自分に戻っ
てくるような気がします。夏休み、し
ばし日常から離れて、じぶん旅してみ
ませんか？



Flair

vol.86

June 2012 Summer
THE TEIKYO SELF

produce
Mo-Green Co.Ltd.
planner
RYO SUDO (Mo-Green)
editor
HIYORI NAKAJIMA (Mo-Green)
TOMONORI NAGAO (Mo-Green)
TETSUYA ITO (Mo-Green)
art director
MIKIO NISHIHARA (Mo-Green)
designer
AKI TSUZUKI (Mo-Green)
publisher
TEIKYO UNIVERSITY
cover photograph
TAKESHI ABE
cover illustration
JUNJI NAKAMURA



発行月:2012年6月(年4回発行)
発行:帝京大学本部広報課
〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1
TEL:03-3964-4162 FAX:03-3964-9189
E-mail:post@med.teikyo-u.ac.jp
URL:www.feelteikyo.com/flair/
© 帝京大学 2012 禁・無断転載

Notice Board.

Report

ラグビー部 U20日本代表
スコッド メンバーに5名選出。

アメリカ・ソルトレイクシティにて6
月に開催される「IRB ジュニアワ
ールドラグビートロフィー (JWRT)
2012」。この大会に向けて結成された
U20日本代表スコッドに、本学ラグ
ビー部から東恩納寛太、坂手淳史、杉
永亮太、河口駿、流大の5名が選出
された。

Report

女子柔道部 OG・松本薫さん
のロンドンオリンピック出場が
決定。

2010年に本学を卒業した女子柔道部
OGの松本薫さんが5月13日に全日
本柔道連盟強化委員会から選出され、
『オリンピック競技大会 (ロンドン)』
への出場を決めた。柔道競技は7月28
日から8月3日にかけて開催される。

Activity

八王子キャンパス
学生チューター、
ハイタッチ運動を実施。

JR八王子駅北口で5月13日に開催
された『第8回★学生天国★』の大学
ブースにおいて、八王子キャンパスの
学生チューターがハイタッチ運動を
行った。学外の方との交流の一環とし
て行ったこの活動では、普段接する機
会が少ない、子どもやお年寄りなど
とのコミュニケーションを通して、八王
子地域との繋がりを深めた。ハイタ
ッチ運動は、八王子キャンパス構内の
バス停付近においても、毎週月曜日の
午前10時から30分間ほど行われて
いる。

Award

空手道部 『第48回東日本
大学空手道選手権大会』
において、男女で優勝。

5月5日に日本武道館で開催された
『第48回東日本大学空手道選手権大
会』において、本学空手道部が団体の
部で男女ともに優勝を果たした。また、
同大会において、男子では遠山将平、
鈴木倫央、石塚将也の3名が、女子
では五明真実子、植草歩の2名がそ
れぞれ優秀選手賞を受賞した。

Award

ラグビー部 新シーズンを
快勝でスタート。

今シーズンから始まった『関東大学春
季交流戦』。4月29日に開催された
第1戦では、大東文化大学と対戦。1
点も与えない試合運びで、98対0の
圧勝を収めた。また、続く第2戦に
おいても、関東学院大学を相手に73
対24で勝利。新シーズンを快勝でス
タートした。

Award

駅伝競走部
『関東インカレ』で健闘。

5月12～13、19～20日に国立競技
場にて『第91回関東学生陸上競技
対校選手権大会』が開催された。『第
89回東京箱根間往復大学駅伝競走
予選会』のインカレポイントが計上
される重要な大会であったが、2部
10000mで蛸名聡勝が自己ベストを
記録し5位に入賞、2部5000mでは
早川昇平が8位に入賞するなど、健
闘した。

name: 村上恵里香さん class: 医療技術学部 柔道整復学科 grade: 3 hobby: 水泳



Erika Murakami

no. 39

選手の心と体、両方を支える柔道整復師に。

中学3年の頃、自身が水泳で国体に出場した際に体のケアをしてくれた方に出会い、柔道整復師という職業があることを知った村上さん。ケアしてもらった後はタイムがぐんと伸び「私もこんな仕事ができたら」と思ったことが、柔道整復師をめざすきっかけとなった。

帝京に入学して3年目。既に、授業で簡単な実技は経験している。「実は、包帯を巻くのが少し苦手なんです」とはにかむが、新しい知識が入ってくることに楽しさを覚えているようだ。

将来は、自身の水泳経験を活かして「壁にぶつかっている子を励ましてあげられる柔道整復師になりたい」と話す。来年期の本格的な実習に向けて、期待に大きく胸を膨らませている。



高校卒業時、水泳部の後輩がメッセージを書いたタオル。彼女にとっての大切なお守り。

name: 二宮恵司さん class: 経済学部 経済学科 grade: 2 hobby: 自転車



Keiji Ninomiya

no. 37

様々なことに、積極的にチャレンジしています。

小・中・高と野球部で活躍した二宮さんは、同じ時期に並行して空手を続け、初段まで取得したガッツの持ち主。現在は野球も空手も練習をお休みし、学生チューターとして忙しい日々を送っている。

ダーを務めています。今は、王子キャンパスのマスケット公募がメインですね。これを完成させて、ラグビーの試合に持って行けたら嬉しい！

そんな彼の夢は、地元愛媛で政治家になること。まっすぐな視線で「大好きな地元をPRしたい」と話す。様々なことに積極的に挑戦する彼の姿勢は、リーダーとして活躍するときには大きな力を発揮するだろう。



移動手段として購入したロードバイクが、いつの間にか趣味に。「富士山や箱根の方まで行きたいです」

THIS IS MY STYLE.

こんな風に、暮らしています。

photograph:TAKESHI ABE, KAZUHARU IGARASHI
text:SATOKO NAKANO

患者さんの心のケアもできる理学療法士に。

理学療法士の国家試験まで1年を切った、4年生の市川さん。彼は、今までに参加した実習の中から様々なことを学んできた。「難しかったのは、検査結果から問題点を導き出す作業。例えば関節の曲がる角度が基準値より浅い患者さんがいても、元々関節が硬い方であればそれは正

常です。先生には「値にとらわれず、臨機応変に対応することが大切」と教わりました」

一人ひとりに合わせた治療を行うのは容易ではないが「何度も繰り返すうちに少しずつわかってきた」と彼は笑顔を見せた。将来は「治療に対する患者さんのやる気も高めていきたい」と話す市川さん。心のケアもできる理学療法士をめざして、彼はこれからも努力を続けていく。



Yuki Ichikawa

no. 38

クリスマスに彼女からもらった、文字盤が個性的な時計。「彼女は、これと色違いのお揃いを持っています」



name: 市川裕貴さん class: 福岡医療技術学部 理学療法学科 grade: 4 hobby: 映画鑑賞

name: 吉原裕明さん class: 薬学部 薬学科 grade: 6 hobby: 映画鑑賞



Hiroaki Yoshihara

no. 40

周りに支えられて成長できた6年間。

薬学関連で働く両親を見て育ち、幼いころからMRになりたいと思っていたという吉原さん。「人と話すことが好き」で、入学してからは、硬式テニス部に入りたくさんの仲間ができた。勉強との両立が大変だったときも、支えになったのは仲間存在だ。「試験前に集まって

深夜まで勉強したり、みんながいたから乗り越えられました」

インターンシップ先の企業に内定し、卒業後は夢でもあったMRの道へと進む。持ち前の笑顔と前向きさを武器に、「患者さんもドクターも、みんなが笑顔になれるようなMRになりたい」と話す。現在は国家試験に向けて勉強中だが、仲間と助け合い切磋琢磨しながら、忙しくも笑顔溢れる日々を送っている。

インターンシップ先で仲間や人事の方にももらった、メッセージ。「就活中は勇気づけられました」



普段生活している場所をしばし離れ、非日常を体験するために出かけるのが“旅”。長期計画を立てて海外に行く人もいれば、近場の温泉などでゆっくりする人もいるでしょう。また、今まで気になっていたけれど行けなかった場所へ日帰りですぐ訪れるのも立派な“旅”です。オリジナルの旅ルートは、人の数だけ存在するといっても過言ではありません。夏休みに向けて、みなさんも“じぶん旅”を計画してみませんか？“気負わず、楽しく”がキーワードです！

photograph:JUNSUKE OBI text:SATOKO NAKANO

特集 じぶん旅計画。

Q. 八幡暁さん、
旅は楽しいですか？

様々な世界の価値観を、
身をもって体験できる。

大学時代にバックパックを背負って旅をしていた八幡暁さんが海を拠点にしたきっかけは、偶然見かけた素潜り漁師の新聞記事。身ひとつで魚を獲る人がいることに感銘を受けた彼は八丈島を訪れ、漁師と交流を回り、独学で素潜り漁を始めた。

「そこで様々な人に出会い、経験を積み途中でやがて「人と海との関わり方を知りたいと思うようになったんですね。それで、卒業後に国内外の漁村を見る旅へ出かけたんです」

海外ではインドネシアやトルコ、ギリシャなどにも足を運んだ。最初は素潜り漁で獲った魚を現地の人にあげていたが、注文が殺到するようになってからは魚を売ったり、米と交換したりしながら過ごしたという。

「そんな生活を3年ほど続けていたある日、奄美大島でシーカヤッカーに出会ったんです。今まで僕は足ヒレと鋶を持って旅をしていたのですが「シーカヤックがあれば、世界が広がるんじゃない？」と言われて、カヤックに興味を持ち始めました」

足ヒレより早く移動でき、獲った魚も載せられるカヤック。「これなら世界を旅できる」と感じた彼は、今まで行けなかった島を訪れるためにカヤックの旅を計画した。エリアは、オーストラリアから日本までの海域。今まで誰もカヤックで横断したことのない、未知なる世界だ。

「外洋の長距離移動や、世界一周の記録には興味なかった。自分が満

足できるだけ海の民を見て、納得できればそれでよかったです」

カヤックの旅は想像以上に過酷で、危機にさらされることも多かった。病気が蔓延する泥だらけの島では、皮膚が泥に耐えられず毛穴が全部膿んでしまったこともあったという。

「崖の上に住み、作物をすることもできない人々が、生きるために鋶でクジラを獲りに行く島もありましたよ。生活は不便でも、みんな笑って暮らしていたのが印象的でした」

世界の価値観は一概ではない。それを、身をもって体験できるのが旅の醍醐味だと八幡さんは話す。「昔の人が積み重ねてきた、人間の根源である「生きること」の基盤を知った上で、今の社会を知りたい」という気持ちは、今なお健在だ。

「自然の中に身を置いていれば必ず不都合なことが起こるけど、受け入れて生きるしかない。人はどんな環境でも楽しく生きられるということを、僕は旅から学んだんです」

インターネットが発達し、手に取らない「情報」は少なくなった。しかし現地の風を感じ、人と触れ合うことで蓄積された「体験」は、人生を変えるほどの感動とさらなる好奇心を心に残してくれるのである。

やはた 暁さん
八幡 暁さん
冒険家

1974年東京生まれ。石垣島在住。バックパック、足ヒレを荷物に、シーカヤックに乗って世界の「海と人との関わり」を見るため旅を続ける。現在もオーストラリアから日本を横断する「グレートシーマンプロジェクト」を継続中。



八幡さんへの取材こぼれ話をモバイルサイトでチェック。

マヌー式旅のココロエ

初心者にとって、旅先は未知なる世界。どこへ何をしに行こうか、手続きはどうしようか…。そんなみなさんの不安に対して、海外渡航歴300回以上の山下マヌーさんがアドバイスをしてくれました。危険回避から目的地の決め方まで、旅の情報が満載です。

illustration: ISAO MAKINO text: SATOKO NAKANO



山下マヌーさん
旅行作家

雑誌記者を経て作家に。独自の視点で集めた海外情報は、多くの読者から支持を得ている。「ハワイで聞いた心にひびくALOHAな話15」(小学館)など、著書多数。雑誌やトークショー、ラジオなどでも活躍中。

現地に足を運び、本物を見ることが大切。

「今の日本には何でもあるし、インターネットも発達しているんで、海外に行かなくてもいろいろなものを見た気になっている人が増えてます。でも、本物はやっぱり違う。それを現地で、どれだけ見てくれることができるかが重要だと思っんです」

そう話すのは、これまでに300回以上もの海外渡航歴を持つ旅行作家の山下マヌーさん。旅は人間的な成長を促し、価値観を変えてくれる。それを身をもって体験している彼女からこそ「特にお金と時間が自由な学生時代に、本物の素晴らしさを自分の目で見てほしい」と話す。

「大学生の頃の旅で思い出に残っているのは、ハワイのコンドミニア

ムで仲間と約1ヶ月過ごしたこと。男4人で食事当番や洗い物当番などを決めて、ルームシェアのような形で滞在しました」

普段、仲間と1ヶ月も一緒に暮らすという体験はなかなかできるものではない。「友だちと助け合いながら過ごすことで、キャンパスの中だけでは築くことのできない友情も生まれますよ」と、マヌーさんは語る。

就職活動の準備で忙しくて、旅に出られないという人もいるだろう。しかし「企業がどんどん海外進出をしている昨今では、海外で働くことのできる人材が求められています」とマヌーさん。海外旅行で培ったグローバルな視点と、様々な体験をして積み上げた、自分遺産。は、これからの人生において大きな役割を果たしてくれるはずだ。

STEP 1 目的地を決める



- POINT ① 最初は英語の通じる国を選ぶと旅をしやすい。
- POINT ② 自分に合った様々な旅の形を検証してみることに。

様々な旅の方法に目を向けてみよう。

「まずは、英語が通じる国に行くといいですね」とマヌーさん。その中でもシンガポールは、安全で楽しめるという点でも学生におすすめだ。

「人種と文化がミックスしているシンガポール。経済の発展と人々の活気を肌で感じるができます。ある意味日本より先端です」

また、旅には様々なアプローチ方法があることも教えてくれた。例えば「ウーフ」という協会では、食事・宿泊場所と「力」を交換する仕組みを作っている。農業などを手伝いながら、無料で世界を回ることもできるのだ。

「こういう旅は、学生だからこそできるのだと思います。また旅行会社に相談すれば、ボランティアの旅も提案してくれますよ。あとは、世界のホストファミリーに登録しているサイトを見てみるのもいいでしょう」

一方で、訪れるだけで環境保全に協力できる旅もある。そのひとつが、マダガスカル。バオバブの木が有名だが、薪として使うために木が切られてしまい、その数は減っている。しかし、観光客が来るエリアの木は切らなくて済むのだ。

「なぜなら観光客のおかげで街が潤っていて、木を切る必要がないからなんです。このように、行くことで守れる環境があるということも知っておいてほしいですね」

STEP 2 計画を立てる



- POINT ① ひとつの国になるべく10日以上滞在しよう。
- POINT ② 危険回避のための準備は、抜かりなく!

目的がなくても大丈夫。とにかく行ってみよう。

近場・韓国であれば、週末を使って2万円ほどで行けるため気軽に旅を楽しむことができる。それも有意義な旅ではあるが、「できれば10日以上滞在した方が街に慣れるし、やりたいことも見えてくる。東京だって、10日くらいいた方が馴染みの店もできますよね」とマヌーさん。特に大きな目的がなければ、旅しながら目的を見つけてほしい。気負わずとにかく。目的を探す目的で旅に出る。これも大切なのだ。

「その際、何が起るかわからないので変更できる航空券を買っておくといういですね。天気の影響などで、

飛行機が飛ばないこともたまにありますから。格安航空券だと、別便に変更してもらえないことがあります」と語る。

「それと、行く前にクレジットカードを作っておきましょう。もしくは、海外で使える口座を作っておくこと。現金を持って行くより安全です。安全とはいえ、保険にも必ず入ってください。事前に保険会社のサイトから申し込み、空港で入るより随分料金が安く済みます」

さらに常備薬を忘れない、パスポートの期限を確認する(必要なパスポート残存期間が国によって異なる)など、細かいことにも注意が必要。旅先で何をするかを考えるだけでなく、準備もしっかりしておこう。

STEP 3 旅を試してみる



- POINT ① 最初はその国の人の*普段。を見てみよう。
- POINT ② 日本にはない*いいもの、にも触れること!

街の顔つきを見て、徐々に旅の範囲を広げよう。

実際に旅をしていると、困ることも多々ある。意外にハードルが高いのは、移動だ。

「タクシーに乗るときは現地の地図に印をつけておいて指で示せば理解してもらえように、現地の言葉が書いてある地図を買ってください」

加えて、注意したいのは盗難。引っこたくりに遭わないようにポケットなどに貴重品を入れ、なるべく荷物を持たない工夫をしておくのがベストだ。万が一盗難に遭っても、絶対に追いかけないこと。もっとひどい目に遭う危険性があるからだ。

「あとは、長いズボンとシャツを着て、その土地の一流ホテルを見ておくといいですね。『自分なんて、まだまだ!』と思えますよ(笑)」

旅のヒントが欲しくなった場合は「日本食屋をチェックしておく」と良い」とマヌーさん。日本人の店主がいれば、何かと相談に乗ってくれる。「あとは、長いズボンとシャツを着て、その土地の一流ホテルを見ておくといいですね。『自分なんて、まだまだ!』と思えますよ(笑)」

ギャラリーや本屋しかり、そこにはかない、いいものを見ることはとても大切。日本には何でもあると思っけていても、意外にないということがわかる。いい意味で、価値観がくつがえされる瞬間だ。

何気ない場所にも隠されている、驚きや感動の数々。帰国後には必ず誰かが、また旅に出たい。と思っつのも、旅の面白いところなのである。





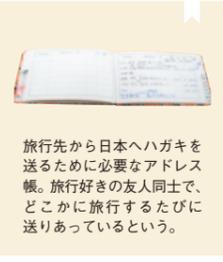
みんなの旅

人にも個性があるように、旅にもそれぞれ個性があります。みんながどんな旅をしているか、山下マヌーさんのコメントと一緒に見てみましょう。

illustration: ISAO MAKINO

本部人事課
古野路子さん

- Q1 印象に残っている旅は?
A1 高校時代、留学中に行ったアメリカ一周バス旅行。
- Q2 旅行に行く頻度は?
A2 年に3、4回くらい。
- Q3 旅先で必ずすること、持っていくものは?
A3 アドレス帳
- Q4 今、一番旅したい場所は?
A4 ヘルシー
- Q5 その理由は?
A5 遺跡が好きで、マチュピチュに登りたいので!



高校での留学中にいったアメリカ一周旅行は、世界中の学生を詰め込んだバスの旅で、違う国の価値観を肌で体感した、印象深い経験でした。

帝京大学短期大学現代ビジネス学科
学科長 佐藤光宣教授

- Q1 印象に残っている旅は?
A1 新婚旅行で行ったドイツ。
- Q2 旅行に行く頻度は?
A2 最近は国内を中心に、年に4、5回。
- Q3 旅先で必ずすること、持っていくものは?
A3 自慢のレンズで写真を撮ります!
- Q4 今、一番旅したい場所は?
A4 京都
- Q5 その理由は?
A5 数えきれないほど行っていますが、訪れる度に変わる景色に魅了されるんです。



ヨーロッパと京都が好きですが、両方に共通するのは中世の面影を残しているところ。歩いているだけで楽しめます。

経済学部経営学科2年
山口壮人さん

- Q1 印象に残っている旅は?
A1 今年の3月に行った、大阪へのダンス旅行。
- Q2 旅行に行く頻度は?
A2 年に5、6回。週末や夏休みなどに。
- Q3 旅先で必ずすること、持っていくものは?
A3 ダンス
- Q4 今、一番旅したい場所は?
A4 LA(米・ロサンゼルス)
- Q5 その理由は?
A5 POPダンスが盛んなので上手なダンサーと知り合いたいです。



尊敬しているPOPダンサーの先生のレッスンをうけることが目的で、1ヶ月ほど大阪に滞在しました。大阪人はみんな優しいです。

医療技術学部看護学科2年
松本紗耶さん

- Q1 印象に残っている旅は?
A1 韓国旅行。
- Q2 旅行に行く頻度は?
A2 ここ2か月で4、5回。全部韓国です。
- Q3 旅先で必ずすること、持っていくものは?
A3 韓国アイドルに会いに行きます。
- Q4 今、一番旅したい場所は?
A4 中国、台湾
- Q5 その理由は?
A5 現地の若者が集まる街で洋服を買いあさりた(笑)。激安なんです!



韓国アイドルが好きで、1泊2日の弾丸ツアーにも行きます。現地ではコンサートに握手会と、とにかく韓国アイドルを追っかけますね。

医療技術学部看護学科2年
里川恵さん

- Q1 印象に残っている旅は?
A1 いとこの家族と行ったサイパン旅行。
- Q2 旅行に行く頻度は?
A2 年に2回くらい。
- Q3 旅先で必ずすること、持っていくものは?
A3 家族にお土産を買います。
- Q4 今、一番旅したい場所は?
A4 エジプト
- Q5 その理由は?
A5 遺跡が大好きなので、カイロの博物館に行ってみたいです!



サイパンではキレイな海が印象的でした。でも、すぐそのへんに戦車の残骸があったり、思わぬところで戦争というものを感じましたね。

医療技術学部視能矯正学科4年
戸館千裕さん

- Q1 印象に残っている旅は?
A1 群馬県水上への一人旅。
- Q2 旅行に行く頻度は?
A2 月に1回、日帰り旅行くらい。
- Q3 旅先で必ずすること、持っていくものは?
A3 新しいものや人に出会う。
- Q4 今、一番旅したい場所は?
A4 フィンランド
- Q5 その理由は?
A5 サウナと寒中水泳を繰り返すフィンランド式サウナを体験してみたいです。



水上の旅行では、宿泊先で知り合った年配の女性と意気投合。「グループに混じって、スナックとカラオケにいました。楽しかったです。」



「マヌー式 セイション海外トラベル術」(メディアファクトリー) 金がないなら知恵を出せ。知恵がないなら汗をかけ。汗も出ぬなら恥をかけ! マヌー式の旅スタイルを紹介。荷物、宿、カップルの旅行など、旅のヒントを凝縮。



マヌーさんの初海外体験は、小学校の頃に家族で行ったハワイ。両親に連れられての旅行だったため大きなトラブルはなかったが、それでも「車を運転しようとしたら、親父が「国際免許が必要なのか!」と言っていたのを覚えています」と話すように、旅先では小さなミスにもたくさん出会ってきた。

「学生時代にバリへ行ったのですが、インドネシアで必要なパスポートの残存期間が、ちょうど制定されたタイミングだったんです。自分のパスポートの残存期間がそれに足りず、知らずに行ったら『あなたは入国できない』と言われてしまった驚きでした。「なんとかしてくれ」と訴え続けていたら大使館の人が迎えに来てくれて「明日までにこの人のパスポートを作ります」と言ってくれたんです。本当に助かりました。何かあっても、諦めてはいけません。」

以来、300回以上にわたる渡航経験の中で数々の失敗も重ねながら、マヌーさんの「じぶん旅辞書」はどんどん厚くなっていった。その中にはもちろん、いい出会いもたくさんあったという。

「マレーシアで知り合った香港人のカップルと、連日一緒に食事をしていました。彼らは寂しかったのか、とても喜んでくれました。そうしたらある日「日本へ行く」と連絡があり、日本で再会したんです。たくさんお土産もいただきました」

またマヌーさんも現地へ行くたびに、以前仲良くなった人と連絡を取ると、そうすると、相手も喜んでくれるという。目的を決めずに旅をすることが多いというマヌーさんらしいエピソードは、枚挙にいとまがない。「これから行ってみたいのは、ブラジルの「マヌー国立公園」ですね。僕と同じ名前だから(笑)。狭いボートに10人くらい乗って、キャンプをしながら回るらしいですよ」

これからの素敵な出会いについて「考えるだけでワクワクする」という表情を見せるマヌーさんだった。

旅する乗りもの

旅先への移動手段として活躍する様々な乗りもの。その中にはそれ自体を旅の目的にしたくなる、魅力的な乗りものがあります。

「乗る」ことで始まる旅の形もある。

熊本県の最南部に位置する、人吉市。この地をのんびりと走るのには、赤のかわいらしいボディが映える肥薩線「いさぶろう・しんぺい」号だ。停車駅は5つ。35kmの道のりを、1時間半かけて移動する観光列車である。元々は、地元の方が移動手段として使う小さな列車だった。現在もその役割に変わりはなく、鉄道ファンを中心に愛されるようになってからは内部をレトロに改装。アナウンスによる観光案内を行い、名所では徐行運転をすることで四季折々の景色を楽しんでもらえるようなサービスを開始した。

「お客さまの層は本当に幅広いですね。ご年配の方から、おひとりで見られる若い方、あるいは卒業旅行という形でもご乗車いただいています。先ほどは、外国の方もいらっしゃいましたよ」

そう話すのは、客室乗務員を務める河口亜衣さん。車内で彼女は、お客さま同士を繋ぐパイプの役割も果たしているという。「例えば「あちらのお客さまは〇〇からいらっしゃったんですね」とお声がけをすることで「あ、一緒ですね」といった会話がなされることも多々あります。一緒に写真を撮るなどして、仲良くなられる方も多々いますよ」と河口さん。観光列車にルールはない。景色を眺める以外の、温かな楽しみ方もあるのだ。

そんな「いさぶろう・しんぺい」号の、特長のひとつが「スイッチバック」。これは、険しい山道を登るためにジグザグに助走をつけて走行することで、大畑駅と真幸駅の2カ所で実施されている。駅を発車する時に一旦逆走し、その後方向を変えて進行するため、通常の列車とは違う不思議な感覚を味わうことができる。また大畑駅ではスイッチバックと同時に、螺旋状に敷かれた「ループ線」による巡回走行も体験可能だ。各駅到着後は、7〜8分停車。列車を降りて、歴史の深い駅舎や自然豊かな周辺環境をゆっくり観光できるのも嬉しい。純粋に「移動手段」として利用するのももちろん楽しいが、乗車するだけで心が満たされるひとつの旅の形ともいえるだろう。

『いさぶろう・しんぺい』号の旅



4 | 3 | 2 | 1
1. 列車の旅といえば「駅弁」。吉松駅ホームでは、売り子さんによる昔ならではの販売が行われている。2. 車窓から眺められる、移り変わる景色。ポイントによって、晴れた日には鹿児島県の桜島も見ることが出来る。3. レトロな車内風景。通常は2両、繁忙期は3両で運行されている。4. 「いさぶろう・しんぺい」号の車体。人吉駅発の列車は「いさぶろう」号、吉松駅発の列車は「しんぺい」号と名付けられている。



8 | 7 | 6 | 5
5. 途中で立ち寄ることのできる駅舎には、100年以上の歴史を持つものも。6. 車内中央に、展望スペースを設置。車掌気分を味わうことのできる帽子が、ちょこんと置いてある。7. 走行時は、しばしば地元の方が手を振ってくれる。田舎ならではの温かな交流も楽しい。また、地元で穫れたお米や味噌、お茶や椎茸などの販売が行われている駅もある。8. 乗客が自由にメッセージを残していくノート。それぞれの旅の思い出がつつられている。

一度は乗ってみたい、日本のローカル線

「いさぶろう・しんぺい」号

肥薩線の人吉—吉松間を運行する観光列車。人吉駅発の列車を「いさぶろう」、吉松駅発を「しんぺい」と呼ぶ。「いさぶろう」と「しんぺい」は同じ車体。可愛い外観と、情緒ある内装で九州だけに限らず、日本全国から観光客が訪れる。

JR九州HP
http://www.jrkyushu.co.jp/



いすみ鉄道(キハ52系)

千葉県の大原駅—上総中野間で運行。四季の花を鑑賞できるコースと、都心から1時間半のアクセスの良さが魅力。



SLやまぐち号

山口県の新山口駅—津和野駅間を結ぶSL列車。明治風、大正風、欧風など5つのタイプに分かれたレトロな客車が人気。



指宿のたまて箱

鹿児島県の鹿児島中央—指宿間を走る特急列車。白黒に塗り分けられた車体で観光客に愛されている。愛称は「いぶたま」。

Part 1

ローカル線のすすめ。

地元の人にも旅人にも愛され続ける「列車」という乗りもの。今回は、自然の中をのんびりと走行し、旅気分を高めてくれる熊本のローカル線の魅力に迫りました。

photograph:TAKESHI ABE text:SATOKO NAKANO



ようこそ、東京の街へ。
私がご案内します!

『東京一日コース』で、
3カ所を巡ります!



東京
タワー

1. 東京タワーの入口にある撮影スポットで一枚。2. 展望台にて、スケルトンの床の上へ。高い所が苦手な人は、足がガクガク…。3. 東京の街が一望できる展望台。4. 何度訪れても心が躍る東京のシンボル、東京タワー。

浅草



1. 雷門で記念撮影。2. 隅田川の向こうに、東京スカイツリーが見える。3. 浅草寺でおみくじ。結果は…。4. 仲見世通り。平日でも、多くの観光客で賑わう。5. あげまんじゅうを食べながら、ぶらり浅草散歩をするのも楽しい。



Part 2

はとバスのすすめ。

東京観光といえば、長い歴史を持つ『はとバス』。今回は4人の学生が、自分たちの住む街を“観光”という視点から改めて見つめ直しました。さて、新たな発見はあったでしょうか?

photograph: KENTARO OSHIO text: SATOKO NAKANO



左からガイドの小林さん、文学部外国語学科4年 佐々木友輔さん、経済学部経済学科4年 古川貴大さん、経済学部経済学科4年 村上正太郎さん、経済学部経済学科4年 知野幹大さん。



明治
神宮

1. 大きな鳥居にびっくり! 街の喧噪とは裏腹に、東京の真ん中とは思えないほど緑が豊か。2. まずは手と口を清めて、神社の中へ。3. 健康、学業成就、就職内定…みんなの願いが届きますように。

身近な東京の街にも楽しいスポットが満載。宿駅近く。周辺に遊びに訪れることはあっても、神社の中に入る機会はありません。初めて明治神宮に足を踏み入れた彼らの感想は「緑がいっぱい!」。都心のパワースポットとしても有名なこの場所、思いきり体を伸ばし、たっぷりリフレッシュできたようだ。

東京を東から西へと移動し、最終目的地は東京の名所を語る上で外せない東京タワー。展望台に登り、東京の街を眺める。一日かけて巡って来た場所が、一望できる高さだ。「都心では駅の周辺くらいしか歩くことがないので、改めて東京の良さを知ることができて楽しかったです」と話すのは、参加者の佐々木さん。同じく村上さんも「一般の方が観光のために来ている。東京」という街を、新しい角度で見られました」と、いつもとは違う視点から街の表情を感じ取ったようだ。

すぐに行くことのできる場所に限って、足が遠のいてしまいがちでも、身近なところにも楽しいスポットが溢れているということ、身をもって体験した様子だ。知野さんの「すごく面白かった。もう少し長くいたかったです!」という言葉にも、その気持ちが表れていた。

はとバス

常時100通り以上のツアープランを定期運行する観光バス。目を惹く黄色い車体をトレードマークに、多くの観光客に愛されている。

TEL:03-3761-1100
(8:00~20:00年中無休)
HP:http://www.hatobus.co.jp/

身近な東京の街にも
楽しいスポットが満載。

「はとバス」とは、東京近郊の観光スポットを短時間で堪能できる定期観光バスのこと。ツアー内容も多彩で、その数およそ100種類というから驚きだ。今回学生たちが参加したのは、東京の名所を巡る「東京一日コース」。はとバスに乗るのは初めて」という4人の期待をのせて、バスはさっそく東京駅を出発した。

皇居や国会議事堂などを経由して、最初の目的地・浅草へ向かう。普段は地下鉄で通り過ぎる東京の街を眺めながら、優雅に移動。移り変わる景色に、旅行気分も高まっていった。「浅草といえば、300年の歴史を誇る仲見世通り。250mにわたって並ぶお店には和装小物から祭用品まで何でも揃っており、雷おこしやあげまんじゅうなども楽しめます」

バスの中で、ガイドさんがお話をしてくれるのも楽しい。街や建造物の歴史から季節のイベントに至るまで、東京を知り尽くしている彼女に聞けばわからないことはない。浅草近辺で育った参加者の古川さんも「お話の中には知らないことも多かったです」と新鮮な表情を見せた。

現地到着後はおみくじを引いたり、今話題の東京スカイツリーを眺めたりして自由時間を満喫。その後、新宿新都心で昼食をとり明治神宮へ向かう。下町から都市部まで観光できるのも、はとバスのいいところだ。

明治神宮が位置するのは、シヨツピングエリアとしても有名なJR原



まずはコードを覚えるのに大苦戦！ LinaLinaさんが細かく教えてくれた。



右：みんなで『ハッピーバースデー』を演奏。
左：ウクレレは体と平行に持つのがポイント。

◆ ウクレレ演奏のポイント

間違えても気にしない！
完璧を求めるのではなく、
気持ちよく弾くことが大切です。

ハッピーバースデートゥーユー♪



右：「ウクレレは、軽いからどこへでも持っていきける。時と場所を選ばない楽器です」と LinaLinaさん。
左：自主練習中。できるようになるまで繰り返す。



みんなでひとつの曲を
セッションしてみよう。

短時間で習得できるのがウクレレのいいところ。

今度は「ソロ譜」を見ながら、曲の主旋律（メロディ）を単音で弾いていく。コードと違って弦を1本押さえればいいため簡単に思えるが、指の動きが早く、ついていくのが難しい。しかし何回も練習をしているうちに楽器そのものに慣れたのか、徐々に安定してきた。「ではソロとコードのグループに分かれて合わせてみましょう！」

細かいことは気にしない。全員でセッションすることによる一体感と心地よさが、ここにはあった。弾き終わったあとは、思わずみんなで拍手。参加者の坂口さんは「だんだんと面白さが増してきました。ひとりで弾くより、みんなと合わせる方が楽しいですね」とすがすがしい笑顔を見せた。「未経験でも、短時間で弾けるようになるのがウクレレ。お友だちの誕生日に、今日覚えた曲をプレゼントしてあげてください」と LinaLinaさん。最初は気後れしていた学生たちも、演奏の楽しさと楽器の身近さを体感し、達成感でいっぱい表情をしていた。



みんな初心者ということでしたが、この短時間で予想以上に上達してくれて驚きました！これを機に、ウクレレに親しんでもらえたらと思います。

左から：文学部社会科学1年 山崎綾乃さん、経済学部観光経営学科2年 松橋健さん、文学部社会科学1年 清水悠梨愛さん、講師のLinaLinaさん、薬学部薬学科2年 坂口嵩寛さん、薬学部薬学科2年 岩木浩平さん。

帝京大学医学部附属病院でウクレレコンサートを行う予定です。やさしいウクレレの音色で、心地よい空間を体感してください。
日時：9月8日(土) 14:00～ ※入場無料
場所：帝京大学医学部附属病院1F コミュニティストリート



NEXT WORKSHOP

第12回開催予告
STREAMER COFFEE COMPANYの
澤田洋史さんとラテアート体験しよう！

バリスタとして活躍する澤田さんを講師に迎え、ラテアートを体験します。自分の好きな文様を描いて、世界に1つだけのオリジナルラテアートを作ってみませんか？

澤田洋史さん Hiroshi Sawada
食品メーカー勤務後、留学先のシアトルで出会ったラテアートに魅せられ、バリスタの道を志す。2008年 Free Pour ラテアートワールドチャンピオン。

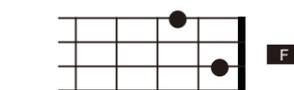


● 開催日
2012 7.7(SAT)

● 応募の仕方
ワークショップへの応募は、右のQRコードから。空メール送信後、(flairworkshop@flair-t.com宛)応募フォームにて申込みができます。応募者多数の場合は抽選となりますのでご了承ください。



※ドメイン指定受信・拒否等の設定を行っている場合は、flairworkshop@flair-t.comからの電子メールを受信可能な状態に設定してください。



弦は、楽器の左から4弦、3弦、2弦、1弦と呼ばれる。ウクレレを抱えたときには4弦が上、1弦が下にくる。Cは「ドミソ」、G7は「ソシレ」、Fは「ファラド」の和音。「ハッピーバースデー」は、この3コードで展開する。図の●のところが左の指で押さえます。※右利き用の運指表です。

3つのコードで曲を弾いてみよう。

SONG

ハッピー バースデー トゥー ユー♪	C	G7
ハッピー バースデー トゥー ユー♪	G7	C
ハッピー バースデー ディア ●●♪	C	F
ハッピー バースデー トゥー ユー♪	C	G7 C



ふたつのグループに分かれて発表。みんなの前で弾くとすると、ちょっと緊張する。

健康が、いちばん。

text:SATOKO NAKANO

海外でかかる感染症には、どんなものがありますか？

Q. 旅先で感染症を防ぐ方法は？

A. 気をつけた方がいいのは、生もの、ゲテもの、サバイバルもの。経口だけでなく、皮膚からの感染にも注意が必要です。

Dr.海外には、水や食べ物から感染する食中毒やコレラ、腸チフス、パラチフスを疑った方がいいですね。

Dr.国内にも、ある程度感染症が存在します。例えば、魚に寄生していた虫が激しい胃痛をもたらす「アニサキス症」。



西谷 肇 教授 Hajime Nishiya 帝京大学医療技術学部臨床検査学科

STAFF ROOM.

こんな風に、働いています。

photograph:TAKESHI ABE text: TETSUYA ITO

酒井絢子さん

八王子キャンパス 教務グループ



始めたばかりのフットサル。職員チームで活動しています。

職員でチームを作り、フットサルをしているという酒井さん。「最初は男子チームの応援をしていましたが、観ているうちに自分もやりたくなりました。」

新卒で帝京大学に入職し、今年で3年目の酒井さん。八王子キャンパスの教務グループで、主に窓口業務を担当している。



連休には学生時代の友人と旅にいきます。

「土日や連休は近場へ旅行しています」と話す酒井さん。学生の頃に留学や海外旅行を経験した彼女は、社会人になっても、暇をみつけては当時の友人と国内旅行をしているという。

得意の英語で部署でも頼られる。

大学時代に10ヵ月間アメリカへ留学。培った英語力は教務グループの仕事にも活かしている。



みんなの、カルチャー。

text:RIKAKO KAGAWA

MUSIC

言葉にできない気持ちが、歌につまっています。

推薦人→医療技術学部柔道整復学科1年 森本愛未さん



柔道整復学科の森本さんが友人に勧められて聴き始めた、ナオト・インティライミ。「男性とは思えない、高くてのびやかな歌声が魅力。身体の中に響いて心地がいいんです。」



デビュー1年目で日本武道館のワンマンライブ、2011年末には国立代々木第一体育館のワンマンライブも大成功させたナオト・インティライミの3rdアルバム。

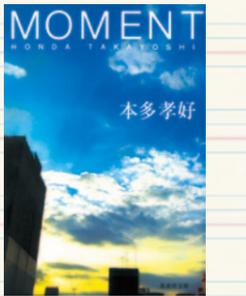
BOOK

生きる希望を与える仕事をしたい、と背中を押されました。

推薦人→福岡医療技術学部 理学療法学科3年 岡崎麻子さん



病院でアルバイトをしている大学生の主人公。ある末期がん患者の願いを叶えたことから、彼の元へ、次々と願いが寄せられるようになる。



『MOMENT』本多孝好 (集英社文庫 ¥560) 大学生の主人公は、バイト先の病院で、死を目前にした末期がん患者たちの最後の願いを叶えはじめる。

SPOT

お祭り三昧! 住んでも遊びに来ても楽しめる街です。

推薦人→薬学部薬学科3年 小川浩代さん



薬学科の小川さんがお勧めする場所は、生まれ育った街、門前仲町。なんと、この街では毎月3回も緑日が立つ。



『門前仲町』 「深川緑日」は、毎月1日、15日、28日。エリアは門前仲町交差点周辺から富岡八幡宮までの永代通りの北側歩道と深川不動尊の参道。

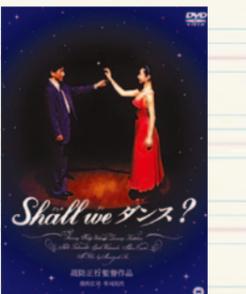
MOVIE

やっぱりダンスは踊ってこそ面白い!

推薦人→文学部教育学科 初等教育学専攻初等教育コース3年 小林政貴さん



「学生みんなに社交ダンスの楽しさを知ってもらいたくて」と今年、帝京大学初の社交ダンスサークルを立ち上げた教育学科の小林さん。



『Shall we ダンス?』 (角川映画 ¥4,935) 平凡な中年サラリーマン(役所広司)が、電車から見た社交ダンス教室の美女に魅せられ、ダンスを習い始める。